

歴史散歩

れきしさんぽ No.41

平和への願い・久留米の戦争遺跡(3) 一 空襲遺跡編

太平洋戦争末期になると、米軍による日本本土への空襲は激しさを増しました。当時から久留米市はゴム産業が盛んで、鉄道の拠点でもあり、また、陸軍の司令部や軍の施設が所在することから、九州で最も重要な目標都市の一つと考えられていました。南太平洋のマリアナ諸島に拠点を置く長距離戦略爆撃機B-29の部隊は、本土空襲の目標として180都市をリストアップし、久留米市はその53番目に名前があげられました。しかし、内陸部にある都市は、地形的に夜間レーダー攻撃が不向きということがわかり、結局、B-29の空襲の対象からは除外されました。

昭和20年(1945)6月下旬に沖縄が陥落すると、B-24やB-25といった重爆撃機を中心とする極東航空軍の前進基地が建設されました。沖縄の極東航空軍の主な任務は、南九州上陸作戦を控え、九州の飛行場や都市、輸送網を破壊することにあります。7月になると、九州各地は沖縄から飛来する爆撃機や戦闘機の空襲を頻繁に受けるようになり、久留米市もその対象となったのです。

荒木空襲の遺跡

① 福徳長酒類九州工場〔旧森永食品工業久留米工場・台湾製糖九州製糖工場〕(所在地：荒木町荒木)

8月8日(水)、午前11時30分ごろのことでした。突然超低空で荒木駅上空に飛来したP-51 Mustang戦闘機2機が、4両編成の上り列車および駅周辺の建物に向けて、何度も旋回しながら繰り返し機銃掃射しました。

機関車は第一撃で被弾し、現福徳長酒類九州工場を過ぎたところで、激しく蒸気を吹き上げて停まったといいます。当時、列車は満員の乗客や護送中の米軍捕虜で溢れかえていました。

国鉄の記録では、この空襲で旅客22名が重軽傷、九州医専(現久留米大学医学部)には、死傷者44名来院の記録が残っていますが、駅周辺の寺院や医院に運ばれた死傷者数が不明のため、いまだ正確な被害の実態はわかっていません。

当時、森永食品工業久留米工場では、航空燃料用のブタノールを製造していました。現福徳長酒類九州工場の建物や工場外周の南側煉瓦塀には、この時の機銃掃射で12.7mm弾が貫通したと考えられる穴が点々と残っています。



▲福徳長酒類九州工場

▲荒木空襲遺跡の位置(左)と工場南側外周壁に残る機銃弾が貫通した痕跡(右)

久留米空襲の遺跡

②消防第五分団詰所・望楼（所在地：原古賀町）

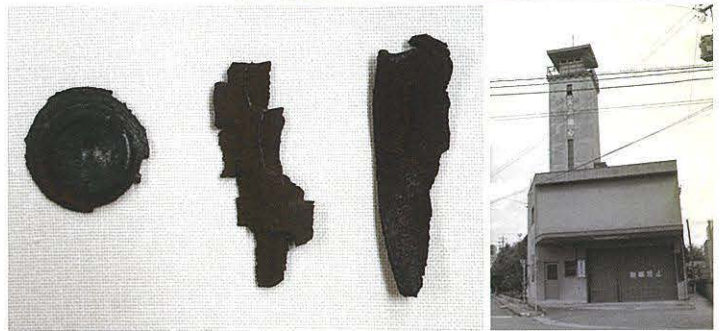
8月11日（土）、沖縄の読谷飛行場を飛び立った第一波28機と第二波25機の合計53機のB-24は、南西方向から約2,900～3,200mの高度で久留米上空に侵入し、10時16分から、しょうじま 荘島小学校前交差点付近を目標に、M76焼夷弾の投下を開始しました。この焼夷弾は落下すると破裂し、約20分間に渡って激しく燃焼を続けます。ばくれつ 爆裂する特性から、初期消火作業を妨害する高い効果もあるとされます。

この望楼は、昭和12年（1937）に建てられた、「火の見やぐら」です。翌年に常備消防隊が設置されると、望楼上に望楼室を増築し、敵機の侵入を監視する対空監視所として使われました。空襲当日、第一波のM76焼夷弾は、望楼がある原古賀町から六ッ門町、日吉町方面を中心に投下されました。望楼からは、住民に対して危険を知らせる鐘の乱打の音が響き渡りましたが、それもまもなく爆破炎上する焼夷弾の音にかき消されました。望楼には直撃弾が命中し、消防自動車がペチャンコにつぶれていたといひます。



隣接する金丸国民学校（現金丸小学校）でも、中庭に大穴が開き、木造校舎のあちこちから火の手が上がって、懸命の消火活動にもかかわらず全焼しました。

北西側から見た望楼（上）と望楼室撤去前の様子（下右）。下左は焼夷弾の破片で、金丸校の消火活動中に亡くなった方の体内から出てきたもの（久留米市教育委員会蔵）▶

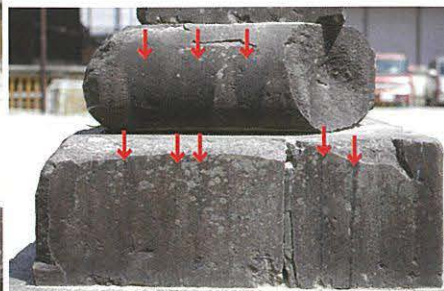


③素盞鳴神社の被爆狛犬（所在地：城南町）



M76焼夷弾は、全長約1.5m、重さ212kgある500ポンド級の大型高性能焼夷弾でした。B-24は1機に12個搭載可能で、第一波の28機は336発全弾、計84 tを投下しています。この攻撃で、ぎおん 祇園さんの愛称で親しまれている素盞鳴神社は、社殿や神輿をことごとく焼失しました。

また、天保13年（1842）に建立された一対の狛犬のうち、阿形像は焼夷弾の直撃を頭部に受け、顔と台座の一部が吹き飛んでしまいました。表面は、高熱によって赤黒く変色しており、ゆし 焼夷弾の油脂分が黒いタール状に垂れた状態で付着しています。



現在、破損した顔面には、うしこ 氏子の手でその経緯が彫り込まれ、空襲の悲惨さを今に伝えています。

▲顔面が吹き飛んだ狛犬。高熱による変色や液だれした油脂↓が確認できる。

あわしまじんじや ひ ぼくとり い ひよしまち
④ 粟島神社の被爆鳥居 (所在地: 日吉町)

元和8年(1622)に初代久留米藩
主有馬豊氏によって建立されたと伝
えられる粟島神社にも、焼夷弾の雨
が容赦なく降り注ぎました。当時14
歳で神社の近所に住んでいたある少
年は、空襲警報がでて動員先から帰
宅したところで、空襲が始まったそ
うです。まもなく火が隣家から燃え
移って来たので、防火用水の水をバケツでありったけか
けました。しかしすぐに水は底をついたので、東櫛原の
レンコン畑に逃げ込んだといひます。

激しい空襲に社殿も焼失、明治30年(1897)に地
元の有志が寄進した鳥居にも、焼夷弾が直撃しました。
この衝撃で上部の笠木や貫が失われ、柱2本を残すだけ
の姿になってしまいました。

戦後しばらくそのままの状態而建っていましたが、現
在は元通りに修復されています。しかし、柱の上部には、
高熱を受けたことによる変色と、タール状の付着物が今
だに残っています。



▲現在の粟島神社の鳥居(上)と変色部分(左上)。
写真下は、二本脚だけになった鳥居(修復前)。

せんさいししやいれいのひ こがしらまち
⑤ 戦災死者慰霊之碑 (所在地: 小頭町)



▲小頭町公園の南東隅にひっそりと建つ戦
災死者慰霊の碑

第一波の攻撃開始から10分後の10時26分、第二波25機
のB-24が焼夷弾投下を開始しました。この時使用されたの
は、鋼鉄製の筒に油脂を詰め込んだM69焼夷弾を38本束ね、
大型容器に格納した500ポンド級のE46集束焼夷弾でした。

この焼夷弾も1機のB-24に12発が搭載されており、合計
300発、計75tが全弾投下されています。投下されると、上
空約1,500mで容器が開き、分散して落下していきます。地
上付近では、木造家屋の屋根を突き破り、着弾すると内部の
油脂を撒き散らして着火、木造家屋はわずか15秒程で炎上
して周囲に燃え広がり、大火災を巻き起こしたのです。

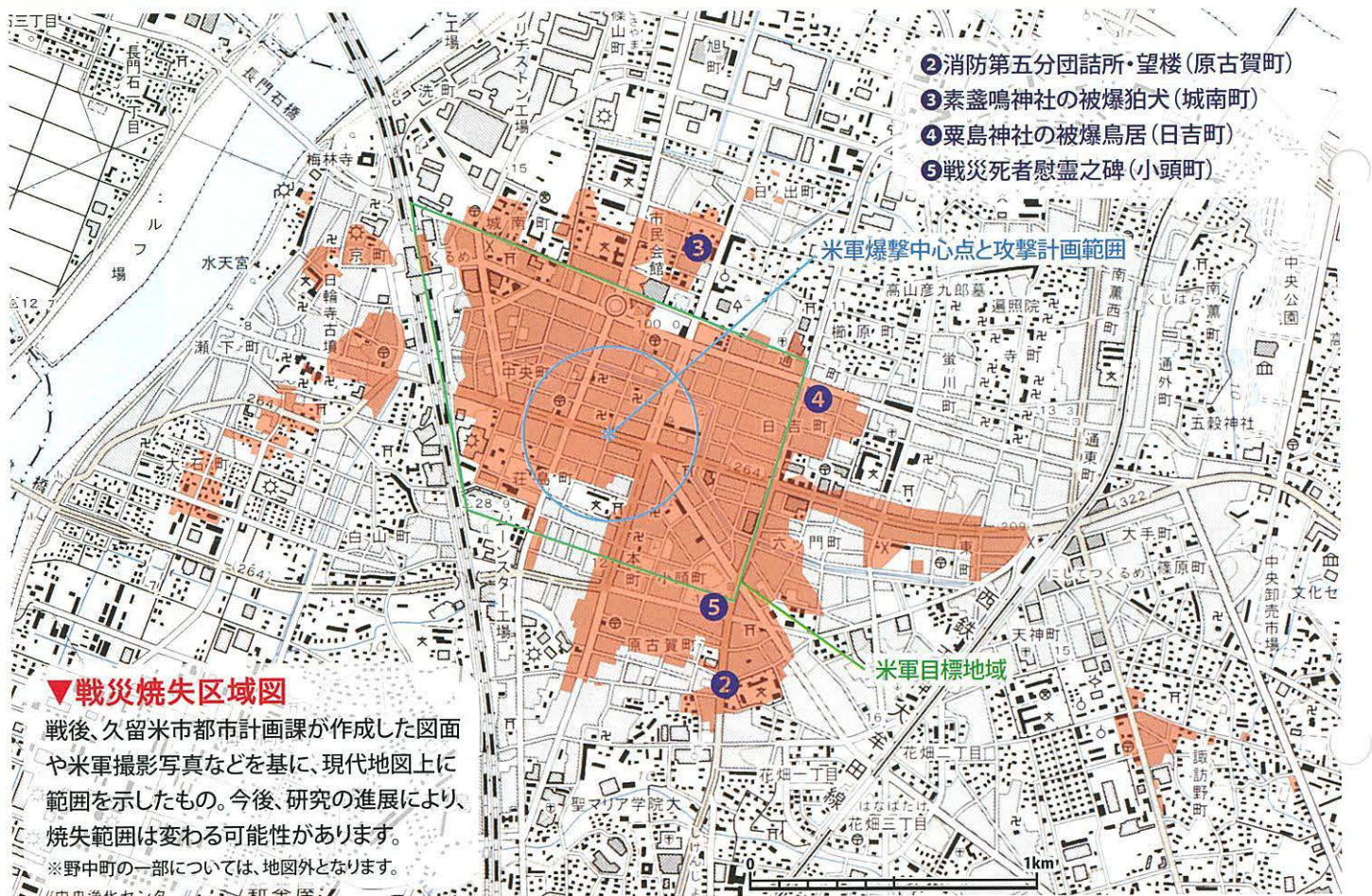
特に、原古賀町や小頭町は家屋が密集しており、道幅も狭
いため、雨の降るようなザーッという音と共に焼夷弾が落下
してくると、瞬間に一角が火の海に。当時14歳だったある
少女も母親と炎の中を必死に走りました。前を走っている人
達は皆裸足でした。道の左側には無数の焼夷弾が突き刺さり、
全身焼けただれた人が担架で次々に運ばれています。右側は
火の海で、泣き叫ぶ声、負傷した人たちであふれていました。

その光景は地獄絵図をみているようだったといひます。また、逃げ場を失い防空壕の中で犠牲とな
った方も数多くいたようです。20分以上続いた空襲も、10時40分ころようやく終了しましたが、7
カ所で大火災が起き、火炎と黒煙は高さ3,600~5,600mに達して、市街地は燃え続けました。

空襲後7周年を迎えた昭和27年（1952）、小頭町公園内に建立されたのが、戦災死者慰霊之碑です。当時の市長山下善助、助役主計貞二、久留米市慰霊会長野村福太郎、同仏教会長阿理燈らが発起人となり、同年8月11日に除幕式が行なわれました。以来、毎年この日、石碑の前では市主催の慰霊祭が執り行われています。

▼久留米空襲の被害（久留米市役所編『続久留米市誌』下巻、1955年による）

- ・死者212人（※214人ともいわれる）
 - うち、金丸校区100人、荘島校区65人、日吉校区18人、篠山校区4人、京町校区4人、その他4人、市外17人
- ・重傷者67人、軽傷者93人、収容中死亡者16人
- ・罹災戸数4,506戸（市総戸数の26.5%）
- ・罹災者数20,023人（市総人口の25.9%）
- ・罹災面積157ヘクタール（市総面積の5.4%、市街地の60～70%）



▼戦災焼失区域図

戦後、久留米市都市計画課が作成した図面や米軍撮影写真などを基に、現代地図上に範囲を示したもの。今後、研究の進展により、焼失範囲は変わる可能性があります。

※野中町の一部については、地図外となります。

▼久留米空襲について調べよう（以下の図書は、久留米市立図書館で閲覧可能、一部は貸出も可能です。）

- 1 久留米市役所編『続久留米市誌』下巻、1955年（※被害状況などの公式資料）【調・田・北・城・男】
 - 2 坂田健一『新稿久留米の空襲』（自費出版）1997年（※各種資料・体験談の集成）【中（貸出可）・調】
 - 3 生田保年・野嶋剛訳『久留米空襲に関する米軍文書』『久留米郷土研究会誌』第25号、1997年（※米軍の作戦指令書）【調】
 - 4 工藤洋三・奥住喜重編著『写真が語る日本空襲』現代史料出版、2008年（※久留米空襲中の米軍写真）【城（貸出可）】
 - 5 久留米市総務部総務課『語り継ごう久留米人の戦争を』1996年（※証言集）【中（貸出可）・調・六（貸出可）・北（貸出可）】
 - 6 日本の空襲編集委員会編『日本の空襲8』三省堂、1980年（※久留米や九州各地の空襲についての概要と証言）【調】
- 【凡例】中：中央図書館・一般室 / 調：中央図書館・調査研究室 / 田：田主丸図書館 / 北：北野図書館 / 城：城島図書館
六：六ツ門図書館 / 男：男女平等推進センター